

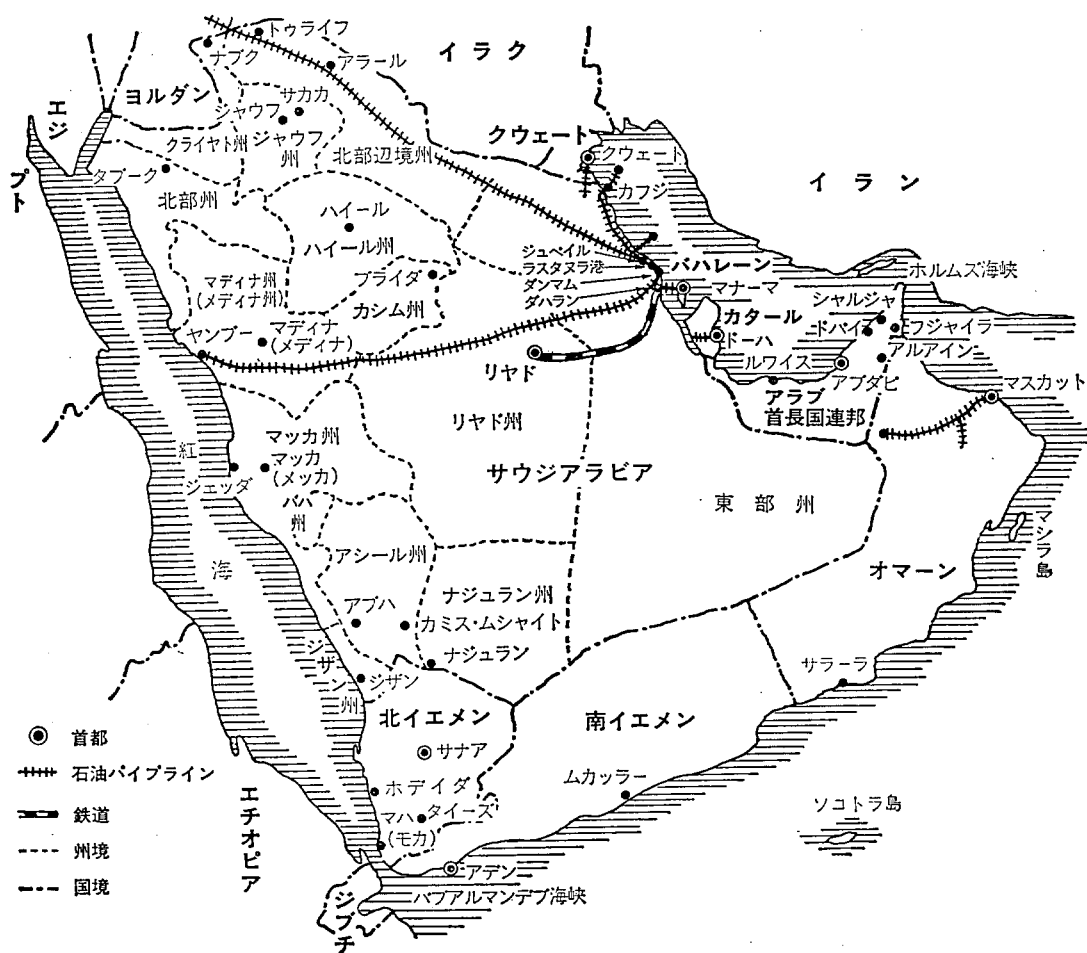
原油固定価格制への復帰：1986年のサウジアラビア

著者	間 寧
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
シリーズタイトル	アジア・中東動向年報
雑誌名	アジア・中東動向年報 1987年版
ページ	[629]-648
発行年	1987
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00002042

サウジアラビア

サウジアラビア王国

面積 214万9600km²
 人口 1082万人 (1984年央)
 首都 リヤド
 官語 アラビア語
 宗教 イスラム教 (スンニ派ワッハーブ)
 政体 君主制
 元首 ファハド国王
 通貨 サウジ・リヤル (SR)
 (1米ドル=3.75SR, 1986年12月末)
 会計年度 1986年12月31日～87年12月30日 (1986年12月31日以降)



1986年のサウジアラビア

原油固定価格制への復帰

間 寧

はじめに

サウジアラビアの石油市場シェア拡大戦略は、1985年9月以来、約1年にして終わった。これを一般的に言われているように、同戦略の「破産」と呼ぶかどうかは、国内的、国際的どちらの目的から見るかによって異なってくる。サウジアラビアは国内的には財政収入増加という目標を達成できなかったものの、国際的には生産調整に応じない産油国に対し、価格競争の恐しさを思い知らせることができたからである。

確かに石油価格の暴落は、サウジアラビアの予想を上回った。1986年の石油収入は、81年の4分の1に落ち込んだ85年の水準から回復しなかった。また、長期の石油収入の見通しが立たないため、86年度予算は発表されず、85年の月割りペースで実行された。石油戦略を転換しても、石油価格の暴落だけで収入増加はおきず、このことへの国内的不満は、ヤマニ石油相の解任をもたらしした。

しかし他の産油国と比較すれば、サウジアラビアの損失は小さい。石油価格競争が続いた1986年のOPEC各国の石油収入は85年のそれと比べて平均44.0%減少したが、サウジアラビアはその落ち込みが最も小さく21.1%であった。この価格競争による財政的損失は、他の産油国の方が深刻であった。つまり、石油市場シェア拡大戦略は、低コスト(1バレル=2ドル)、高生産能力(1000万b/d)のサウジアラビアが、カルテル協約を守らない産油国から生産調整の確約を取りつけるための合理的なシナリオであった。その意味で、この戦略が年末までにOPEC、非OPEC諸国間に生産調整の気運を作ったことにより、サウジアラビアは国際的目的を達成したと言える。

しかし、前述したように、サウジアラビアが財政収入を増やせなかったことは事実である。政府

は低収入を一時的でなく、長期的なものと考えて、政治・経済的安定を維持するための体制作りを進めている。一つはサウド家の伝統的正統性を強化すること、もう一つは経済の効率化を進めることである。前者では、ファハド国王は二大聖地の守護者と自称してイスラム関係施設の建設を積極的に推し進めている。後者では、政府は農業補助対象作物の見直しなども行なっているが、これに対する政治的危惧は大きく、さしあたりは外国人労働者解雇などで支出削減を行なうしかないであろう。

石油収入の減少に歯止めがかかったとはいえ、これが再び上昇するまでにはある程度時間がかかることが予想される。サウジアラビアはここ2、3年とってきたような国内体制強化を続ける一方、国際的には石油カルテル機能強化のための合意作りに積極的に取り組むであろう。ただ後者の面で従来と異なるのは、他国に対してもサウジアラビアと同様の負担を要求するという点である。スウィングプロデューサーとして一方的に犠牲を払うことはサウジアラビアにとってもはや受け容れ難いであろう。

経 済

●固定価格制への復帰 サウジアラビアが1985年9月に増産に転じ、OPECが86年1月以降、市場シェア拡大戦略を取ったため、原油スポット価格は急落した。この下落の程度は、サウジアラビアの予想を越えた。85年12月にOPEC総会が石油市場シェア拡大方針を決める直前、ヤマニ石油相は、価格競争になった場合の86年夏の石油価格は1バレル=20ドル程度と予測していた。しかし実際には、同期のスポット価格は一時10ドルを割ったのである。

石油価格が下落しても、増産と販売量の拡大に

よって石油収入をふやすことができるとのサウジアラビアの考えは、大きく裏切られた。1986年8月、サウジアラビアの生産量は同年最高の610万b/dに達したが、このときのネットバック価格は1バレル=13.1ドルであった。ネットバック販売を開始した85年9月に比べ、生産量では倍増したのに、価格は半減したために、石油収入増加の見込みは実現しなかった。

シェア拡大戦略が増収につながってもそうでなくても、この戦略はいずれ終わることになっていたはずである。価格競争によって限界生産者を排除し、また生産調整の必要性を他の産油国に思い知らせた後に、石油価格体系の立て直しに取り組むというシナリオが描かれていたと思われる。しかし、この戦略についての見通しは、政府内では必ずしも一致していなかった。

産油国、特に非OPECの協調に対して懐疑的であり、価格決定を市場に任せるしかないと考えたヤマニ石油相は、2月、サウジアラビアの(市場シェア拡大)政策は変わらないと述べた。また3、4月になっても、産油国の協力が得られる見込みがないため、「価格は10ドルにまで下がる」との考えを明らかにした。一方王室は、3月の予算発表延期の前日、石油価格安定化のために産油国の協調を訴えた。また、「4月まではOPECの減産の可能性がない」とMEES誌に述べたヤマニ石油相に対し、同日、他の産油国とともに石油価格安定化に努めるよう促している。

6月以降、サウジアラビアの石油政策に関する発言は、主として王室から発せられた。ファハド国王自らが20ドルの石油価格を「予言」とともに、国別生産枠復帰を決めることになった6～7月の第78回OPEC総会に合わせ、OPEC諸国に1600万b/dの生産上限、国別生産割当ての遵守を再三要求した。しかし、同総会決定に従って行なわれた9～10月の生産調整も、石油価格を大きく引上げることなく(プレント・スポット価格で13～15ドル/台)、価格は王室の望む17～19ドル水準とは依然隔りがあった。むしろそれは、ヤマニ石油相の描いていたシナリオに近かった。

すなわちヤマニ石油相は現在の需給均衡価格を14～16ドルと考え、年に1ドルずつのゆるやかな価格上昇を想定していた。また、消費国はもちろん、

産油国にとっても、長期的な需給均衡価格に基づいて価格を設定することが、財政収入の安定化にもつながり、望ましいと述べている(ハーバード大学での講演)。これに対し、石油価格を引き上げれば財政収入をふやせるとする王室は、10月の第79回OPEC総会を前に、石油価格の18ドルでの固定に加え、現在のサウジアラビアの生産割当量を拡大することを要求した(明らかに矛盾する二つの要求のうち後者は後に取り下げられることになる)。

しかし、10月の第79回OPEC総会でのヤマニ石油相の使命は、彼が非現実的と考える王室の要求を実現させることであった。石油価格を18ドルに固定させるためには、OPEC諸国間の強力な減産合意を取りつける必要があった。石油価格の暴落が減産合意への雰囲気を作り出していたが、それだけでは不充分であった。国別合意を取りつけるための強力な政治力、交渉力が発揮される必要があった。ヤマニ石油相がOPEC総会での行き詰まりを打破できないことに業をにやしたファハド国王は10月、自らGCC諸国と接触を開始し、その1週間後、ナゼル企画相をヤマニ石油相に替えて起用した。

ナゼル石油相代行(12月末に石油相に就任)は、12月の第80回OPEC総会で、生産協定上限を1987年前半につき1600万b/dから1580万b/dにするための各国合意をとりつけることができたが、そのためにはサウジアラビアの要求に関しても譲歩しなければならなかった。すなわち、同期のサウジアラビアの生産割当は435万b/d以上に引き上げられることはなく、OPEC平均を上回る減産率の413万b/dに落ちついたのである。仮に18ドル固定価格での原油取引が主流になるとしても、サウジアラビアの1987年の石油収入は238億ドルと、前年より9.7%の増加にとどまる見込み(PIW誌)である。いずれの販売戦略をとろうと、原油に対する総需要に変化がない限り、サウジアラビアが大幅な増収を期待することは難しかったのである。

●拡大する財政赤字 1985年度、政府は2000億サウジリヤル(SR)の均衡予算を組んだ。しかし、歳入実績は推定で1200億SRと予算を30%も下回った。歳入実績は1810億SRに切り詰められたものの、約600億SRの財政赤字が発生したと見ら

れる。OPECのシェア拡大戦略が始まった1986年1月以降、石油価格の急落につれ、収入見込みを立てることは一層難しくなった。そのため政府は、予算発表時期を3月から、8月、12月と再度延期し、その間は85/86年度予算実績の月割りで支出を行なった。

政府はイスラム暦に基づく従来の会計年度に代えて、1986年12月31日～87年12月30日を87/88会計年度と定め、歳出1700億SR、歳入1172億8000万SRの赤字予算を発表した。予算赤字527億SRは政府海外資産の取り崩しによってまかなわれることになる。しかし83年度以来、財政赤字は324億SR、460億SR、509億SR、600億SRと拡大し、同4年間の累積赤字額は1900億SR、約500億 ドル に達した。このため、82年に1400億 ドル を記録した政府海外資産は86年末で約900億 ドル に減ったとされ、87年度の予算赤字を差し引くと、さらに約800億 ドル にまで落ち込むと推定される。このような海外資産の急速な減少にもかかわらず、政府は後述のとおり歳出を前年実績比で6.0%減にとどめた。これ以上の予算規模縮小は、政治的にも危険であったためと考えられる。

一方国際収支の面では、1982年から拡大の趨勢にあった経常収支赤字は、84年には190億 ドル を超えた。しかし85年になると輸入が30%も落ち込んで輸出低下を補ったため、同赤字は129億7000万 ドル に縮小した。

●歳出規模の維持 石油収入の落ち込みが続いたにもかかわらず、政府は1987/88年度予算で歳出に大なたをふるうのをためらった。それは、資本支出面での削減がすでに行きつくところまで達し、削減の対象が広範囲の国民に関わる経常支出の部分にまで及んでいるためである。聖域である軍事支出を除く歳出総額のうち、資本支出の占める割合は、1981年の33.5%から87年の22.5%へと減少してきている。

政府も一度は経常支出削減に手をつけたが、1985年には国内的反発から公共料金等値上げを撤回するなどの事態も生じている。歳出削減に対しより慎重な態度に出た政府は、86年3月に予算発表を延期した時も、公務員給与、補助金、社会保障、不動産融資など、直接国民生活に関わる部門

の支出は続けると明言したし、水道料金も最高50%引下げた。

なかでも政府の買付け小麦代金の支払いは、重要案件であった。政府は小麦の国内自給を達成するために国際価格の5倍で農民からの買上げを行なってきた。その小麦の生産量も1984年には国内需要量に相当する170万 トン 、86年には230万 トン に達し、過剰在庫と補助金支出増大という問題もでてきた。これに対し、政府は大麦生産農家への1kg当り1SRの補助金支給を決め、農業生産補助の比重を小麦から、まだ自給率の低い大麦へ移した。

しかし、政府は現行の小麦買付けを急に縮小することはできなかった。一つの理由は、すでに1984年に小麦買付け価格が3.5SR/kgから2.0SR/kgへ大幅に引下げられていることである。農民の不満をこれ以上増大させないため、ファハド国王は、85年の不払いの分についてはただちに農民への支払いをすますよう穀物局に再度命令を出し、86年小麦についても従来と同じ2.0SR/kgで一括して買い付けることを農民に約束した。

また、国家公務員給与が大半を占める一般行政・その他支出(1987年度は別々に計上)は絶対額でも1985年水準を維持し、全体予算比では85年の15.0%から18.4%へと拡大した。これは、「予算発表が遅れても公務員給与の引上げは実行する」との人事院の発表とも共通している。しかし給与支出が拡大しないもとで給与水準を引上げるためには定員の削減が必要である。結局、87年度では公共部門も民間部門同様、外国人労働者の解雇をすすめてこれに対応せざるをえまい。

内 政

●サウド家の伝統的権威の強化 歳入減少期も5年目に入り、「富の配分者」であるサウド家のカリスマ的権威は低下しつつある。このため、サウド家は、伝統的権威を強調することにより自らの支配の正統性を維持しようとしている。サウド家の伝統的権威は、建国の父、アブドゥルアジズ国王の直系であることと、イスラムの二大聖地の守護者であるということに依拠しているが、ファハド国王は特に後者の点を明確にする政策を打ち

出している。

財政難のもとでもイスラム関係施設の拡充は例年のように続いている。マッカに世界最大級のイスラム図書館が開かれ、1万人収容できるモスクが東部州のアルコバール、ダンマム、ハサに建設されることも決まった。ファハド国王は私費でも、モスクの建設を命令している。しかし特に目をひくのは、同国王が、自らの称号を変えたことである。マディナのテレビ局開所式に出席した同国王は、就任以来望んできたこととして、称号を「国王陛下」から「二大聖地のしもべ」(後に「守護者」)へ変更すると発表した。これは治政5年目を迎えたファハド国王の自信の現われととることもできる。しかし同国王は自分と呼ぶ際にいかなる尊称をも使わないよう命令するなどの配慮も見せており、今回の措置が単なる権力の誇示ではなく、イスラムへの忠誠を強調することによって伝統的正統性を高める意図が働いていることをうかがわせる。

●**閣僚級知事の活動** 1986年は大きな人事異動はヤマニ石油相解任以外はなかった。ただ、指導者の世代交替は徐々に進んでいる。ゴサイビ保健相解任(84年)以来、政府への人材登用は、テクノクラートよりも王族重視の傾向が強まっている。新しく起用される王族の中心は、ファハド国王やその兄弟の子息である第三世代である。1月にはナイフ内相の子息、サウド=イブンナイフ王子が青年福祉局次長に任命され、ファハド国王の子息であるファイサル=イブンファハド同局長に次ぐ地位を得た。

1985年に東部州知事に任命されたムハマド=イブンファハド王子は、同州福祉協会への献金、上下水道設備プロジェクトの推進、ムハマド王子学術賞の創設などにより同州での支持を固めようとしている。86年には、マディナ州知事の死去に伴って、アブドゥルマジェド北部州知事が新マディナ州知事に、新北部州知事にはマムドゥーフ王子が任命された。

両知事はファハド国王の異母兄弟で第二世代であるが、年齢は45歳と、第三世代の王子と変わらない。このうちマムドゥーフ北部州知事は、アブドゥルアジズ国王大学経済学部で修士を取得し、エジプトのアレキサンドリア大学政治学部博士論

文を執筆中であり、実務能力をも備えた王族政治家と言える。これは、王室が非王族テクノクラートへの過度の依存を避けるために、テクノクラートの資質を持つ王族を登用していこうとする例である。

閣僚級待遇で任命されたマムドゥーフ王子が、単なる肩書上の知事ではなく、国内統治ならびに開発に関して積極的な役割を果たすであろうことは、就任後の活動から推察できる。まず、ムハマド知事の東部州統治のやり方といくつかの共通性が見いだせる。マムドゥーフ王子も村落開発委員会、福祉協会を主宰して州内の開発や慈善事業を手がけるほか、宗教局によるモスクの建設、囚人に対する特赦、同州知事学術賞の授与、などを通じ、州内での支持を集めようとしている。

さらに彼は同州開発のための最高地方委員会の設立を命令して、開発の比較的遅れた同州に活力を与えようとする一方、「サウジアラビアの急速な発展はシャリーアの遵守によって達成された」として、近代化は伝統とのバランスを保つ必要があるという態度も示している。近代教育の素養と伝統的価値観を同時に備えている王族こそが、現代のサウド家が最も必要とする人材であろう。

●**テクノクラート権限の低下** サウジアラビアの国内開発を、テクノクラートぬきに語ることは従来できなかった。しかし、王室にとって、テクノクラートの存在意義は以前ほどの重みを持たなくなってきた。一つには、第3次5カ年計画(1980~85年)終了までに国内経済基盤が完成したこと、もう一つには、ジュニア・プリンスのなかに近代教育を受けた者が多く現われてきたことがあげられる。しかし、それに劣らず重要なのは、テクノクラートの経済合理性が王族の利権としばしば衝突したことである。

ゴサイビ保健相は、保健省の行政改革を進めるうちに王族とつながりのある病院長の人事問題にふれたことが発端となって1984年に解任された。85年にスルタン国防相が旅客機と原油のバーター取引を行なったときも、ヤマニ石油相は政府がバーター取引を禁止していることに変わりはないとして、石油省としての筋をとおした。このようにテクノクラートの発言力が高まり、しかも彼らの

実務領域が王族の利権に関係するところまで及んでくると、王室はしだいに彼らの権限を弱めようとしている。

テクノクラートの最も集中している省である石油省の発言力の低下がこの1年、目についた。まず、サウジアラビアの石油政策に関する声明は、従来、石油省から発せられていたが、販売量拡大政策が本格化した1986年からはそれが王室から別の形で出されるようになり、6月になると、石油省声明は事実上なくなって王室声明一本となった。また、ヤマニ石油相解任後も、12月にはターヘル・ペトロミン総裁が解任され（後任未定）、同省のエリート養成校である石油鉱物資源大学の名前がファハド国王大学に変えられたことは、石油省権限へのしめつけの一環とも考えられる。しかし、特に石油政策を考えるうえで市場原理を軽視することはできず、テクノクラートの影響力排除にも限度があろう。

●軍事支出の確保 「石油収入の低下とは関係なく軍備の充実を進める」とのスルタン国防相の発言は、1987年度予算によって裏付けられる。軍事支出は絶対額では85年度予算の645億8000万SRから607億5200万SRへと減少したものの、構成比では32.1%から35.7%へと増加した。2月にはイギリスとの間に70億^{ドル}の戦闘機購入契約が結ばれ、6月にはアメリカからAWACS 5機の購入が決定された。また、7月にはスルタン国防相主宰による軍事産業公社理事会が初めて開かれた。

1986年は軍人の昇格人事が大量におきている。4月に王室令が514名にわたる国軍兵士の昇進を発表した後も、5名の将校人事が行なわれた。また、油田地帯のある東部州を守る国家警備隊の兵舎が同州各地で着工、あるいは完成された。国家警備隊は国軍とは別個の軍隊でアブドゥラ皇太子の指揮下にあるが、ファハド国王は兵舎開所式で、同隊も「国家防衛の軸を担っている」と述べ、国軍同様に重視しているとの意志を表明した。

外 交

●内政の延長としての外交 石油収入の引き続

く落ち込みにより、サウジアラビアの外交は内政的要因によって規定される面が大きくなってきた。それは、石油政策が外交政策に占める地位の変化からまはかり知ることができる。

1985年にサウジアラビアが市場占有率拡大戦略に出たことを、イ・イ戦争の要因で説明しようとする議論が一時あった。それは、価格下落によってイランの石油収入を低下させ、産油国からの資金援助を受けているイラクを有利な立場に立たせるというものであった。サウジアラビアがこのような効果を予想していたことは間違いないとしても、これがサウジアラビアの石油政策を転換した一つの理由と考えることは誤りであろう。

この議論は、1973年の第3次中東戦争でファイサル国王がイスラエル友好国に対する石油輸出停止を宣言した論理に類似している。そこではサウジアラビアは石油を「アラブの利益」確保のための外交的手段としたのである。ところが現在のアラブ世界は「強硬派」と「穏建派」への分裂にもまして、レバノン紛争に見られるように、各国別利害によって動いており、アラブの共通の利益は非常に限られている。また、石油政策に関していえば、石油収入の減少に歯止めをかけるという内政的課題に最大の力が注がれている。このためにはOPEC加盟国の減産合意をとりつける外交的努力が以前にも増して重要になっている。

この二つの理由から、(1)サウジアラビアが自国の石油収入減少という危険をおかしてまでイラクの戦闘能力を高めようとしたとは考えにくい。(2)また、戦況の面で優勢に傾いたイランに対してあくまで敵対的姿勢を続けることは将来的に危険であると共に、石油政策の面でイランも石油価格の引上げを強く主張していることから、サウジアラビアがイランへの接近を行なったとしても不思議はない。

「イラン・ゲート」事件に関連して、イラン武器購入にサウジアラビアが融資した事実が11月に発覚した。またOPEC内ではサウジアラビアとイランの連合関係が生まれた。アラブ世界の分極化に加え、石油収入の減少が続いているため、サウジアラビアが外交で自国の国内利益を追求する姿勢は一層鮮明になってきている。

重要日誌 サウジアラビア 1986年

AN=Arab News; MEES=Middle Eastern Economic Survey

1 月

1日 ▶ファハド国王, 外国人労働者のスポンサー変更規制を承認。12月31日に発効。5日に労働省が詳細を発表。

2日 ▶ナゼル企画相, 外国人労働者はプロジェクトが終われば帰国するのは当然であると, *Al Sayyad* 誌に語る。

3日 ▶東部州社会保障局, 1985年の支出額を1億8700万SRと発表。

4日 ▶東部州福祉協会, 3000万SRの社会厚生計画を実施中と発表。

6日 ▶サウド外相, モロッコでの第16回イスラム外相会議に参加(～10日)。

7日 ▶スルタン国防相, リヤドでウラマー, 部族長と会見。

8日 ▶ソレイム商業相, バハレーン訪問, 10日にイサ首長と会談。

9日 ▶アラファト PLO 議長来訪。10日にファハド国王と会談。

12日 ▶財政省, 85年前期の輸入は前年同期比で31.1%減と発表。

13日 ▶ハウ英国外相来訪(～15日)。14日にサウド外相と会談。

14日 ▶アブドゥラ皇太子, 風邪のためリヤドのファイサル国王病院に入院。

15日 ▶ハッダム・シリア副大統領来訪。ファハド国王と会談。

17日 ▶ファハド国王, 入院中のアブドゥラ皇太子を見舞う。

19日 ▶ファハド国王, 入院中のアブドゥラ皇太子を再度見舞う。

20日 ▶ファハド国王, 南イエメン指導者に対し, 内戦の停止をよびかける。

21日 ▶リファイ・ヨルダン首相来訪。ファハド国王と会談。

▶王室令, サウド・イブンナイフ王子を青年福祉局次長に任命。

22日 ▶第6回ムスリム青年世界会議, リヤドで開催。サルマン・リヤド知事主宰。

23日 ▶ヤマニ石油相, OPECNA とのインタビューで, 生産調整が行なわれなければ, 石油価格は1バレル以下に下がるかもしれないと語る。

▶アブドゥラ皇太子, 入院中のリヤドの病院で, アラファト PLO 議長と会見。

▶ナショナル・コマーシャル銀行, 84年9月26日～85年9月14日(イスラム暦1405年)の収益を前年比80.1%減と発表。

24日 ▶クルディ・マッカ副市長, 同市開発・美化計画(総額48億SR)が第4次5カ年計画で着手されたと語る。

25日 ▶王室令, アブドゥルマジェド北部州知事を, 閣僚級でマディナ州知事に任命。

▶ハッサン・モロッコ国王特使来訪。ファハド国王宛の親書をスルタン国防相に手渡す。

▶ラワサニ・イラン外務省アフリカ・アラブ局長来訪。サウド外相と会談。

26日 ▶フマイディ・リビア革命評議員来訪。サルマン・リヤド知事と会談。

27日 ▶モロッコ・ハッサン国王特使来訪。ファハド国王にメッセージ伝達。

▶ムハマド東部州知事, ダンマムとアルコバールの上下水道操業プロジェクト契約(1億6489万SR)に調印。

28日 ▶王室令, マムドーフ・イブンアブドゥルアジズ王子を閣僚級で北部州知事に任命。

▶リヤド商会議所, 84/85会計年度報告書を発表。

29日 ▶アブドゥラ皇太子, ファイサル国王病院を退院。

30日 ▶ナセル南イエメン農業相来訪。ムハマド大統領の文書メッセージをファハド国王に伝達。

▶王室令, ムハマド・イブン・アブドゥラ・アラッシリ准将, ムハマド・イブンヒディアン・アランジ准将の2人を少将に昇格。

31日 ▶農業銀行, 84/85会計年度の融資額を23億2000万SRと発表。

2 月

1日 ▶ファハド国王, ハフルバティンのハーリド国王軍事基地を視察。

2日 ▶国民産業公社(NIC), 86年の投資予定額を1億5000万SRと発表。

3日 ▶第2回都市村落長会議, マディナで開催(～6日)。アブドゥルマジェド・マディナ州知事主宰。

4日 ▶ナゼル企画相, 第3次5カ年計画(80～85年)の民間部門投資額を1700億SRと発表。

5日 ▶商会議所役員会, ジェッダで開催。

6日 ▶サウド・イブンナイフ・ティハマ会長, 青年福祉局次長就任にあたり, 会長職を辞任。

9日 ▶イブラヒム・イラク革命評議会副議長来訪（～10日）。アブドゥラ皇太子と会談。

10日 ▶閣僚会議、イランの対イラク攻勢再開に対して遺憾の意を表明。

11日 ▶ファハド国王、サダム＝フセイン・イラク大統領とイランの対イラク攻勢について電話会談。

▶マムドゥーフ新北部州知事着任。

13日 ▶サウド外相、イラクでのアラブ連盟7カ国閣僚会議に出席。

▶日本の石油業界筋、サウジと日本の三菱が総量8万b/dのネットバック式原油販売契約に調印したと発表。

16日 ▶ナスル・ヨルダン企画相来訪（～20日）。17日にナゼル企画相と会談。

▶アバールハイル財政相、石油鉱物資源大学での講演で、政府は民間部門への支援を続けると約束。

17日 ▶スルタン国防相、シェンドラー英国政府代表と、総額70億 r の戦闘機購入契約にリヤドで調印。

18日 ▶世界最大のイスラム図書館「ハラム図書館」、マッカに開設される。

21日 ▶マムドゥーフ北部州知事、同州のダイバ、ワジを視察。

24日 ▶ザミル工電相、節電のためのシンポジウムで国民に節電をよびかける。

25日 ▶イブラヒム SABIC 副会長、コスト削減、市場占有率拡大をめざすと発言。

26日 ▶マディナ都市再開発計画委員会開催。アブドゥルマジェド同州知事主宰。

28日 ▶クワイズ GCC 事務局次長、GCC は国内産業保護政策を考慮中と AN 紙に語る。

▶訪日中のヤマニ石油相、石油価格暴落を避けるため、非 OPEC 諸国に対し OPEC との対話に加わるよう要請。

3月

1日 ▶GCC 外相会議、リヤドで開催（～3日）。イランにイラク領内からの撤退を求めるとともに、GCC は脅威に対処するための必要な措置を取ることを決議。

2日 ▶イスラム開発銀行、イラクへの1000万 r 融資協定に調印。

▶ファハド国王、GCC 外相と会談。

3日 ▶ムハマド東部州知事、政府はデーツ生産のための資金援助を続けると発言。

4日 ▶ルクマン・ナイジェリア石油相来訪。ヤマニ石油相と会談。

▶財政省、ヨルダンへ1億1970万 r の86年第1回援助を行なったと発表。

5日 ▶王室令、トゥルキ＝イブン＝ハーリド＝アルス

ダイリを、人事院局長に任命。

▶GCC 参謀長会議、リヤドで開催。

▶アブドゥルラハマン副国防相、ダハランで軍部高官と秘密会談。

8日 ▶GCC 石油相会議、リヤドで開催。産油国の協調を訴える。

▶ファハド国王、国内実業家を表彰する規定を承認。

9日 ▶王室、サウジは石油価格の安定を望んでおり、それは産油国間の協調によってのみ可能であるとの声明を発表。

▶ファハド国王、8000戸の住宅建設（総費用約10億SR）を命令。

10日 ▶ファハド国王、86/87年度予算発表を5カ月遅らせることを命令。石油価格の低下により、歳入見込みの修正が必要になったため。給与、政府補助金、社会保障、不動産融資、農業・工業プロジェクトへの支出は続行。

12日 ▶ナゼル企画相、国営テレビとのインタビューで、公私両面での支出削減を求める。

14日 ▶ソライム商業相、国営テレビ放送で、開発プロジェクトはほとんど終了しており、政府はもはや大幅支出を行なわないと語る。

▶タイバ電力公社総裁、国内電力産業の振興を奨励すると発言。

15日 ▶アラファット PLO 議長来訪。ファハド国王と会談。

▶サウジ商工会議所主宰の会議で、ファハド＝アブドゥラ国防航空次官補、国内企業家の投資をよびかける。

▶イブンバツ師、第27回ムスリム世界連盟代表者会議で、神学者に対し、無神論と戦うようよびかける。

▶ナゼル企画相、国営テレビ放送で、国民所得に占める工業生産比率を現在の9%から4年後には15%にすることをめざすと述べる。

16日 ▶ダリ南イエメン外相来訪。サウド外相と会談。

▶ヤマニ石油相、英紙 *Sunday Telegraph* とのインタビューで、石油価格は1 bbl 8 r にまで下がろうと警告。

17日 ▶ファハド国王、水道料金の最高50%の引下げを命令。農民に対する前年度支払い遅延分の支払いをも命令。

▶政府、PLO へ2850万 r の援助金を支払う。

18日 ▶政府、サウジは同国割当量の3倍を超える原油を輸出しているとのハメネイ・イラン大統領の非難を否定。

19日 ▶ジャベル・クウェート首長来訪。ファハド国王と会談。

20日 ▶アンカリ農業相代行、85年の穀物生産農家への

第1次援助支払いを17億2000万 SR と発表。

22日 ▶財政省、85年の輸出を前年比28%減の855億6000万 SR と発表。

▶イスラム司法会議、マッカで開催。

▶アバルハイル財政相、ヨルダン訪問。リファイ首相と会談。

23日 ▶アバルハイル財政相、*Jordan Times* との会見で、石油価格引上げのために減産による犠牲はもはや払わないと語る。

24日 ▶ヤマニ石油相、OPEC 内での話し合いが再開する4月中旬までは、石油市場は低迷を続けようと語る。

▶都市村落省、第3次5カ年計画(80-85年)の同省支出額を1024億 SR と発表。

▶閣僚会議、イランとイラクに停戦をよびかける。

▶アリ・イスラム開発銀行総裁、イスラム法に従った市場からの資金調達方法を考える必要があると語る。

25日 ▶ムハマド東部州知事、ムハマド=イブンナイフ王子、バハレーン訪問。ハマド皇太子と会談。

▶ファハド国王、カダフィ・リビア元首と電話会談。

26日 ▶アブドゥルラハマン副国防相、米国とのAWACS 機購入契約は依然として有効であるとAN紙に語る。同契約は、米国議会が定めた条件をサウジが認めて初めて執行されるとの米国防務省の報道に対して。

▶アブドゥラ皇太子、国家警備隊アブドゥルアジズ連隊を視察。

28日 ▶フマイディ・リビア革命評議会委員来訪。アブドゥラ皇太子と会談。

29日 ▶AN紙、現在10万戸の住宅が空室になっていると報道。

▶フジャイラン欧州・アラブ調停最高委員会会長、欧州、アラブ企業間の争議が増えていると語る。石油価格下落による公共部門の役割低下が主な理由。

30日 ▶アブドゥラ皇太子、30日発売の英国誌 *Al Tadamun* で、外国勢力が、アラブ間の分断を工作していると語る。

31日 ▶ヤマニ石油相、4月15日のOPEC 総会まではOPEC が減産することはないと、31日発売のMEES に語る。

▶閣僚会議、ヤマニ石油相に対し、他の産油国とともに石油価格の安定化に努めるよう依頼。

▶アブドゥラ皇太子、リヤドに国家警備隊員クラブを開く。

4月

1日 ▶ナビ・アルジェリア石油相来訪。アブドゥラ皇太子と会談。

▶ジャキル・イラク外相顧問来訪。サウド外相にアジズ外相からのメッセージ伝達。

2日 ▶政府はアラブ・サミットをリヤドで開催する用意があると消息筋伝える。

▶ムハマド東部州知事、同州の開発プロジェクトの実施を急ぐよう上下水道局役員会で命令。

3日 ▶スルタン国防相、ジュネーブでポリープ切除手術うける。

▶北部州のアブドゥルアジズ国王福祉協会会合開かれる。マムドゥーフ同州知事主宰。

4日 ▶ファハド国王、東部州視察開始。

5日 ▶ブッシュ米国副大統領来訪(〜7日)。ファハド国王と石油、安全保障について会談。

6日 ▶クラーク・カナダ外相来訪。7日にサウド外相と会談。

▶王室、サウジが86年と87年に60万人ずつの外国人労働者を送還するとのレバノン筋の報道を否定。

7日 ▶イブラヒム・バハ州知事、交通事故のため65歳で死亡。

8日 ▶オザル・トルコ首相来訪。ファハド国王と会談。

▶トウィジェリ国家警備隊副司令官、シャリアは国内開発の基礎であると、人員育成セミナーで語る。

12日 ▶フセイン・ヨルダン国王来訪(〜13日)。ファハド国王と会談。

14日 ▶閣僚会議、アルジェリアの石油価格安定化政策を支持すると声明。

▶ファハド国王、カダフィ・リビア元首に親書送る。ムスリム王室顧問伝達。

15日 ▶イサ・バハレーン首長来訪。ファハド国王、サルマン・リヤド知事と会談。

▶スルタン国防相、ハマド参謀総長ら軍幹部と面会。

16日 ▶緊急閣僚会議開かれる。米国のリビア攻撃を非難、リビアと連帯を確認。

▶ハマド・クウェート王子来訪。アブドゥラ皇太子と会談。

17日 ▶外務省、緊急アラブ首脳会議開催を提唱。

▶サルマン・リヤド知事、バハレーン訪問。

▶スルタン国防相、ハフラルパティンのハーリド国王軍事基地視察。

18日 ▶アマディ・シリア財政相来訪。

▶サウジ・ケーブル社、4月1日からバハレーンのミダル・ケーブル社の持株を50%ふやしたと発表。

19日 ▶王室令、514名にわたる国軍兵士の昇進を発表。

▶ハッサン・モロッコ国王、ファハド国王にメッセージ送る。オスマン特使伝達。

20日 ▶ヤマニ石油相、OPEC 諸国が石油政策上の合意

に至るにはまだ時間がかかると述べる。

▶リヤド商工会議所会議開催。

21日 ▶王室令、ハシム＝ムハマド＝アブドゥルラハマン民間防衛部長を局長に昇格。

22日 ▶ヤマニ石油相、3月のOPEC総会決議は市場確保をめざした12月の決定からの後退であったが、21日の決定は12月の決定に再び戻るものであると発言。

▶王室令、アブドゥルラハマン＝ムハマド＝シャハラニ准将、アブドゥラ＝ハムード＝ハリティ准将、マンズール＝アブドゥラ＝イーダニ准将を少将に、フセイン＝ムハマド＝ヤミ大佐、ハッサン＝アハマド＝バドゥバラ大佐を准将に、それぞれ3月11日付で昇格。

23日 ▶国家警備隊宿舎、ハシム＝アラアンに開かれる。

▶サウジ＝アメリカ銀行、イースタン石油化学会社（ジャルク）回転資金融資銀行団が解散したと発表。

▶ヤマニ石油相、石油価格はバレル当たり10^{ドル}まで下がろうと語る。非OPEC諸国の協調が必要と述べる。

▶ナイフ内相、オーストリア訪問。

26日 ▶農業省東部州局長、同州の農業生産は政府の援助により飛躍的發展をとげたと26日付AN紙に語る。

27日 ▶ヤマニ石油相、27日発売MEESとの会見で、日量200万^{バレル}の石油供給過剰があると語る。

▶スルタン国防相、バハレーン訪問。イサ首長と会談。

28日 ▶SAMA、81～85年非石油部門GDP成長率を6.4%と発表。

▶財政省、85年工業部門収入を210億SRと発表。

29日 ▶ナイフ内相、西独訪問。

▶リヤド＝カシム間幹線道路開通。

5月

1日 ▶政府、ファハド国王がバハレーン、カタールの領有権紛争を調停したと発表。

3日 ▶ザミル工電相、石油価格下落が国内工業化に否定的影響を及ぼしていることを、Al Adwa紙との会見で認める。

4日 ▶不動産開発基金、83年3月～84年2月の融資額を71億3000万SRと発表。

5日 ▶ヤンガー＝英国国防相来訪。スルタン国防相と海軍用兵器売却交渉。

6日 ▶米国上院、サウジへの2600発の対空、空対空、対船ミサイル売却法案を否決。

7日 ▶スルタン国防相、レーガン大統領が上院の6日の決議に対して拒否権を行使することを望んでいると語る。

▶ファハド国王、穀物サイロ局に対し、農民から買いあげた小麦代金の全額を支払うよう命令。

▶ファハド＝イブンサルマン東部州副知事、アブカイクを視察。

9日 ▶ラマダン開始。

▶ヤマニ石油相、英国・ノルウェーとOPECとの減産協定には多様な方法がありうると語る。

10日 ▶マジド・マッカ州知事、マッカ福祉協会会長に選任される。

11日 ▶ファハド国王、ジェッダからタイフ着。

12日 ▶ダッバーグ・サウジ商工会議所事務局長、オフセット計画でハイテク産業の育成をめざしているとAN紙に語る。

13日 ▶シェイク農業相、政府は農民への穀物代金支払いを王室令に従って始めたと語る。

14日 ▶SAMA、85年次報告発表。国家歳出実績2164億SR、歳入実績1808億SR。

17日 ▶中央統計局、日本が84年に続き85年も最大の貿易相手国と報告。

19日 ▶ムハマド東部州知事、マムドゥーフ北部州知事、それぞれ218名、67名の囚人に特赦を与える。

▶ファハド国王、カタールとバハレーンがサウジの調停案に合意したと公表。

20日 ▶サウジ＝アメリカ銀行、86年第1四半期純益を前年同期比36.1%減と発表。

▶バツ師、イスラム教徒に対し、アフガニスタンのムジャヒディンを支持するようによびかける。

23日 ▶ファハド国王、イサ・バハレーン首長、カリーフ・カタール首長にメッセージ送る。ホワテル教育相伝達。

▶ペトロミン潤滑油社、85年収益を前年比33%減と発表。

24日 ▶ファハド国王、マッカ着。

25日 ▶実業家スレイマン＝サレハ＝オライヤン、オナイザの美化計画に150万SR寄付。

26日 ▶ヤマニ石油相、1990年代半ばに再び石油危機がおこるであろうと警告。

27日 ▶ミクリン・ハイル州知事、同州福祉協会会議を主宰。

28日 ▶イサ・バハレーン首長来訪。ファハド国王と会談。

▶バツ師、イスラム教徒に対し、アフガニスタンのムジャヒディンを支援するようによびかける。

▶アジズ・イラク外相、サダムフセイン大統領のメッセージをファハド国王に伝達。

29日 ▶ジャベル・クウェート首長来訪。ファハド国王と会談。

▶ファハド国王、ムサビ・イラン首相にメッセージ送

る。

6月

1日 ▶SAMA, リヤル切下げを発表。1 R =3.65 SR から3.75 SR に(今年初めて)。即日実施。

▶SABIC, 株式保有率上限を全株式の0.0001%から0.005%に引き上げたと発表。

2日 ▶ファハド国王, 石油価格は1 bbl 20 R に落ちつくであろうと語る。

3日 ▶ムハマド東部州知事, 同州福祉協会に600万SR寄付。

5日 ▶米国上院, レーガン大統領の対サウジ兵器売却法案を可決。

8日 ▶ファハド国王, アブドゥラ皇太子, タイフ着。

9日 ▶ムハマド東部州知事, 保釈金を支払えない50人の囚人を特赦により釈放。

▶スルタン国防相, タブーク軍事基地を視察。

▶アブドゥラ皇太子, スイス訪問。10日にカシム・シリア首相と会談。

11日 ▶スルタン国防相, ダハラン軍事基地を視察。ムハマド東部州知事と会見。

13日 ▶アブドゥラ皇太子, モロッコ訪問。

14日 ▶ファハド国王, レバノン人民に対し, 争いをやめるよう求めるメッセージを送る。

16日 ▶スルタン国防相, ダンマムの第5防空隊を視察。

17日 ▶国防相, 早期警戒機 AWACS 購入の噂を否定。

▶スルタン国防相, ジュベイルのアブドゥルアジズ海軍基地を視察。

▶アルジャジラ銀行, 1985年収益を8733万SRと発表。

18日 ▶レーガン米大統領, サウジへのAWACS 5機売却計画を承認。

19日 ▶サウジ当局, 政府がシリアの対イラン石油債務20億 R を肩代わりしたとの報道を否定。

20日 ▶南部州福祉協会, 85年に520万SR支出したと発表。

21日 ▶スルタン国防相, ハフラルバティンの軍事基地を視察。サウド=アルカビール王子ら出迎え。

23日 ▶第3次5カ年計画(80~85年)の農業成長率は目標値5.4%を上回る8.1%であったと政府発表。

▶スルタン国防相, タイフからジェッダ着。

▶アブドゥルマジェド・マディナ州知事, 商工会議所会員と会談。

▶ファハド国王, OPEC加盟国に対し, 石油生産量を日産1600万 bbl に維持するようよびかける。

▶ムハマド東部州知事, リヤドからタイフ着。

▶スルタン国防相, ジェッダからタイフ着。

24日 ▶東部州商工会議所, 同州の84~85年の工業の対非石油GDP比は6.3%と発表。

27日 ▶ラスタスラの新しい硫黄精製プラントが5月27日に稼動始めたと政府発表。生産能力は日産300立方 m 。

28日 ▶マムドゥーフ北部州知事, サウジの急速な発展はシャリアの遵守によって達成されたと述べる。

▶東部州福祉協会, 85年の支出を1260万SRと発表。

▶東部州, 85会計年度の上水道工事・維持費を30億SRと発表。

▶GCC 外相会議, タイフで開催(~30日)。

29日 ▶国家農業開発会社(HADC)理事会, 84年会計年度における株式配当を15%と発表。

30日 ▶北部州のアブドゥルアジズ福祉協会, 85年歳出を440万SRと発表。

7月

2日 ▶タイフで人事院会議開催。

5日 ▶サウド外相, カタール, バハレーン歴訪。カーファ首長とイサ首長にファハド国王のメッセージ伝達。

▶トゥルキ=イブンナセル=イブンアブドゥルアジズ・アブドゥルアジズ国王空軍基地司令官, カナダの交通博を見学。

6日 ▶サウド外相, クウェート訪問。ファハド国王のメッセージをジャベル首長に伝達。

7日 ▶ファハド国王, エジプトのAl-Ahram紙との会見でアラブ・サミットの開催が必要と述べる。また, アラブ世界におけるエジプトの指導的役割を評価。

▶ファハド国王, ファハド国王イスラム基金に6000万SR相当の不動産を寄付。

8日 ▶政府, 第3次5カ年計画での北部州モスク建設費を5510万SRと発表。

9日 ▶ファハド国王, エジプトへ20万 R のサウジ小妻を寄付。

▶ラトフィ・エジプト首相, 7日のファハド発言を歓迎すると述べる。

11日 ▶タブーク市, 第3次5カ年計画の開発支出を10億SRと発表。

13日 ▶石油省, サウジがスポット市場で原油販売をしたとのエジプト紙の報道を否定。

14日 ▶ファハド国王, 石油価格の安定は, OPEC諸国が生産割当ての遵守に合意できるかどうかにかかっていると述べる。

▶ファハド国王, 国内の2万人に土地を分配することを都市村落省に命令。

15日 ▶港湾局, 85年の貨物取扱量を前年比31.5%減と発表。

▶サウジ、ヨルダンにバグダッド協定にもとづく対前線国家援助1億1197万ドルを支払う。年間3回支払いのうちの第2回支払い。

16日 ▶ラマダン・イラク副首相来訪。ファハド国王と会談。

18日 ▶国民農業開発公社 (NADEC)、85年の収益を1億5000万 SR と発表。小麦生産量は170万ト。

▶南部州社会福祉局、総費用5100万 SR の福祉プロジェクトを開始したと発表。

19日 ▶ザカートに関する国際セミナー、リヤドで開催(～21日)。

20日 ▶政府、サウジが OPEC を脱退するかもしれないとの外国報道を否定。

▶ヤamani石油相、アリ・クウェート石油相と共に UAE 訪問。ザイド大統領と会見。

21日 ▶*Al Madinah* 紙、85年小麦生産量が200万トに達したため初めて小麦輸出が行なわれようと報道。

22日 ▶王室、モロッコがペレス・イスラエル首相の訪問について事前にサウジの承諾をえていたとするイスラエル紙 *Alamshamar* の報道を否定。

▶ファハド＝イブンサルマン東部州副知事、サウジ・バハレーン連絡橋委員会に出席。

23日 ▶サウジ投資銀行、85 年上半期純益を 110 万 SR と発表。

27日 ▶軍事産業公社第1回理事会、ジェッダで開催。スルタン国防相主宰。

29日 ▶クウェート通信社、OAPEC は加盟10カ国のうち7カ国の分担金滞納のため、10月の職員給与を支払えないであろうと報告。

▶労働省、雇用主が賃金を支払えなくなった場合、その財産を没収するとの通達を発表。

30日 ▶マムドゥーフ北部州知事、同州開発のための最高地方委員会の設立を命令。

▶アバルハイル財政相、南イエメンへ1億9900万 SR の開発援助を行なうと発表。

8 月

2日 ▶ハッサン・モロッコ国王、ファハド国王にメッセージ送る。

▶新設の民間病院、料金を保健省の15年前の規定に従って決定。

4日 ▶閣僚会議、予算発表を12月22日まで再延期することを発表。

5日 ▶マムドゥーフ北部州知事主宰の第1回北部州開発委員会開催。

6日 ▶マムドゥーフ北部州知事、州内視察。

7日 ▶サウジ電力会社、1985年収入を前年比71%増と発表。

11日 ▶当局、7日に多数のイラン人巡礼者を拘束後、取調べ中と発表。

15日 ▶犠牲祭。

19日 ▶ファハド国王、サレハ北イエメン大統領へ口頭でメッセージ送る。

▶スルタン国防相、南部3州の軍事基地視察。

21日 ▶王室令、サレハ＝タハ＝クサイファンを犯罪捜査局長に任命。17日に死亡したアブドゥルアジズ＝マサードの後任。

▶ハフラ工業次官、第4次5カ年計画では工業部門の成長率を15%、GDP 寄与率を13%にすることをめざすと語る。

23日 ▶東部州宗教局、モスクの建設、修理に4500万 SR 支出することを発表。

24日 ▶東部州教育局、ムハマド知事学術賞選考委員会を開催。

25日 ▶東部州農業銀行、7月の融資総額を523万 SR、24件と発表。

26日 ▶GCC 閣僚会議、アブハで開催(～27日)。石油相も参加して、イ・イ戦争、石油価格について討議。イランに対し、公海航行の自由を遵守するよう訴える。また、ジュネーブでの OPEC 総会の合意は、石油価格の17～19%までの上昇につながるとして、これを歓迎。

▶ファハド国王、ウラマー、シェイクと会見。

▶アブドゥラ皇太子、市民を接見。

27日 ▶北部州のサウジ電信電話通信社、従業員の本国人比率を55.77%と発表。

28日 ▶ファハド国王、四つのモスクをアブハに国王の私費で建設することを命令。

▶メフニ北イエメン石油相来訪。スルタン国防相と会談。

▶サウジ公共交通会社、サウジ＝バハレーン横断橋を利用する合併会社をバハレーンと設立することを発表。

31日 ▶イブン＝バツ師、イスラムにおける男女の義務について、ジェッダで講演。

▶ザミル工電相、第3次5カ年計画(1980～85年)での非石油工業部門の年平均成長率を14.1%と発表。

9 月

1日 ▶イラン当局、サウジがイラン人巡礼者を釈放したことは、両国間の関係改善への希望をもたせると声明。

▶人事院、国家公務員給与引上げは、予算発表の遅延にかかわらず、当初の予定どおり実行されると発表。

2日 ▶GCC 国営石油会社会議、リヤドで開催。石油

製品の価格づけについて。

▶イスラム開発銀行の対トルコ2625万^{ドル}融資協約調印される。

3日 ▶金融筋、GCC が為替政策について討議中と伝える。対ドル・リンクから通貨バスケット方式に移行するかどうかをめぐって。

▶ザミル工電相、第4次5カ年計画の終わりまでに、工業部門のGDP構成比は現在の8.3%から15%に成長するであろうと発言。

4日 ▶東部州都市村落局、公共プロジェクトに7億1000万SR支出することを決定。

6日 ▶アバルハイル財政相、経済発展のためには行政改革が必要と述べる。

▶ミクリン・ハイル州知事、同州福祉協会会議を主宰。

7日 ▶ミクリン・ハイル州知事、同州商工会議所理事会と会談。

8日 ▶ハサ社会福祉協会、85年上半期の援助額を190万SRと発表。

▶GCC文化相会議、マスカットで開催。

10日 ▶SABIC、86年上半期の利益を5800万SRと発表。前年同期比で約4倍増。

▶石油省筋、9月第1週の原油生産量は割当ての435万b/d以下であったとして、サウジの産油量が割当て量をこえたとする報道を否定。

12日 ▶企画省、第3次5カ年計画での支出を1兆2050億SRと発表。うち6610億SRは開発支出、5440億SRは一般予算。

13日 ▶ファハド国王が数日休暇を取ると王室発表。

14日 ▶SABIC、85年の純益を1億4800万SRと発表。前年比約2倍増。

▶北部州、資本金500万SRの農産物販売株式会社の創立を決定。

15日 ▶イースタン石油化学会社(ジャルク)、国内・海外の12の銀行団と3億2850万SRと2000万^{ドル}の融資契約を調印。

16日 ▶アブドゥルラハマン副国防相、アブドゥルアジズ国王海軍基地を視察。石油市場の情勢は、サウジの兵器装備計画に変化をもたらさないと語る。

▶アブドゥラ皇太子、ウラマーや部族長と会談。

17日 ▶ギリシャとの経済協力協定、調印される。

18日 ▶ヤマニ石油相、9月第1週のサウジの原油生産量は370万b/dと述べる。

19日 ▶シェイク農業相、自給率の上昇により、農産物輸入額は85年には前年比で43.2%減少したと発表。

20日 ▶GCC商業相会議、リヤド開催。

▶東部州上下水道局理事会、ムハマド知事の主宰で開

催。カティーフの4630万SRの水道プロジェクトを承認。

21日 ▶ハーリド国王士官学校長ミテブ=イブンアブドゥラ王子、国家警備隊予備軍訓練の開会式に出席。

▶ミクリン・ハイル州知事、国内開発は、アブドゥルアジズ国王の哲学に何ら反するものではないと語る。

22日 ▶王室令、大麦生産農家に対し、大麦1^{トン}につき1SRの補助金を与えることを通達。

▶駐サウジPLO代表部、サウジからバグダッド決議にもとづく2850万^{ドル}の援助を受けたと発表。

▶ムハマド東部州知事、バハレーン訪問。イサ首長と会談。

24日 ▶GCC電力相会議、リヤドで開催。

▶内務省、不法滞在者は厳しく処罰すると警告。

25日 ▶アブドゥラ皇太子、北イエメン訪問。サレハ大統領と会談。

27日 ▶アガザデ・イラン石油相来訪。ヤマニ石油相と会談。86年末までに石油価格を1^{バレル}19^{ドル}にまで引き上げることをめざすと述べる。

▶AN紙、主要5農業公社が85年農業生産の30%を生産したと発表。

▶シェイク農水相、67~85年の農業部門成長率を14.79%と発表。

28日 ▶マムドゥーフ北部州知事、同州村落開発委員会を主宰。

29日 ▶シェイク農水相、11件・6186万SRの農畜産プロジェクトを承認。

30日 ▶ハミディ・リビア革命評議員来訪。ファハド国王と会談。

▶アバルハイル財政省、民間部門に対し、積極的投資をよびかける。

10月

1日 ▶ファハド国王、ラバイの2000メガワット級発電所の開所式に出席。

▶ナトシャ駐サウジPLO代表、アブドゥラ皇太子と会見。

▶職業訓練研修所理事会、ファイズ労働相の主宰で開催。

4日 ▶GCC国防相会議、マスカットで開催。

▶ザイドUAE大統領来訪。ファハド国王と会談。

5日 ▶サレハ北イエメン大統領来訪。ファハド国王と会談。

6日 ▶タラール王子、AGFUND総裁を11月末で辞任すると発表。

▶スルタン国防相、バハレーン訪問。

7日 ▶消息筋、オフセット・プログラムの民間部門を

代表する資本金1億SRのハイ・テク企業が11月に設立されると発表。

▶GCC 教育相会議、リヤドで開催。

8日 ▶村落開発委員会、ムハマド東部州知事主宰のもと、ダンマムで開催。

9日 ▶労働省、民間部門で85年に雇用されたサウジ人は1万6062人と発表。前年比で64.4%増。

▶イブラヒム・イラク革命評議会副議長来訪。

10日 ▶政府、サウジがアメリカの放射性廃棄物をサウジの砂漠に埋めることを許可したとするテヘラン放送の報道を否定。

12日 ▶マムドゥーフ北部州知事、同州の美化プロジェクトを承認。

13日 ▶閣僚会議、OPEC 総会に対し、サウジの生産割当量の拡大と石油価格の17~19%の固定化を要求。

▶ムハマド東部州知事、同州各地を視察。

▶アブドゥラ皇太子、ウラマーや部族長と会談。

15日 ▶ファハド国王、サウジ・ケーブル社のケーブル製造工場開所式に出席。国内自給率の引上げを訴える。

▶港湾局、海上輸出入船舶の港湾使用料金を50%引下げることを決定。

▶シェイク農水相、サウジが食糧安全保障へ努力していることを強調。

▶ムハマド東部州知事、ムハマド王子教育賞を同州学生に授与。

17日 ▶ファハド国王、86年の小麦買上げ代金の一括払いを許可。

18日 ▶政府、87年1月以降は現在のOPEC 生産割当での拡大を要求すると発表。

▶アサド・シリア大統領来訪。アブドゥラ皇太子と会談。

19日 ▶スルタン国防相、フランスとの海軍武器供与協定が調印されたと発表。

▶アブドゥラ皇太子、イラク訪問。サダム＝フセイン大統領と会談。

20日 ▶閣僚会議、ファハド国王がOPEC 総会の行き詰まりを打開するためにGCC 諸国との接触を始めると発表。

21日 ▶GCC 内務相会議、リヤドで開催。

▶リヤド製油所、85年生産量を4158万7398バレルと発表。

▶GCC 財政相会議、リヤドで開催。

22日 ▶ファハド国王、マディナで市民と接見し、国民生活の向上のために努力すると語る。

23日 ▶ファハド国王、エジプトへコーラン60万部を送ることを命令。

▶スルタン国防相、マディナで国軍将校と会談。

▶王室令、ファイズ＝イブラヒム＝バドル港湾局長、トゥルキ＝イブンハーリド＝スディリ行政委員長、オマル＝アブドゥル＝カデル＝ファキ会計監査局長、ムハマド＝イブンアブドゥルアジズ＝イブンザラア監督調査局長、シェイク＝ムハマド＝イブンイブラヒム＝イブンジュバイル苦情局長を国務大臣に任命。

25日 ▶ファハド国王、マディナで第15回イスラム大学最高会議を主宰。

▶情報最高委員会、リヤドで開催。ナイフ内相主宰。

▶サルマン・リヤド州知事、マディナのコーラン印刷センターを訪問。

26日 ▶国民産業公社(NIC)、スウェーデンの鉄線製造会社と技術協力協定を締結。

27日 ▶ハイル州最高企画委員会、ミクリン知事の主宰で開催。

▶ファハド国王、マディナのテレビセンター開所式で、自らの称号を「国王陛下」から「両聖地のしもべ」に変更すると述べる。

▶SABIC、尿素をダンピング輸出しているとのEECからの訴えを退ける。

▶国民商業銀行(NCB)、短期通貨基金と通貨基金の二つの投資基金を拡大する計画を発表。

▶ナイフ内相、フランス訪問。

28日 ▶政府、サウジが原油1バレル当たり50%の値引き販売をしているとの報道を否定。

▶ファハド国王、マディナのムハマド・モスクの増築計画モデルを視察。

▶スルタン国防相、ハルジュの軍事産業局訓練センター第12回卒業式に出席。

29日 ▶SAMA、86年第1四半期の物価上昇率を1%と発表。

▶政府、駐サウジPLO 代表に2850万\$支払ったと発表。

▶シェイク農水相、総額2190万SR、5件の農業プロジェクトを承認。

▶ファハド国王、自費での増改築が完了したマディナのカーバ・モスクを視察。

▶ファハド国王、ヤマニ石油相を解任、代行にナゼル企画相を任命。

30日 ▶王室、ハーリド・アシル州知事に人材統括湾岸研究所メダルを授与することを決定。

▶ナゼル石油相代行、石油価格を1バレル18\$にまで上げるサウジの提案をOPEC が取り上げるよう同事務局長に要求したと発表。

31日 ▶ジェッダ製油所、85年の生産量を3345万バレルと発表。

11月

1日 ▶訪仏中のナイフ内相、サウジの石油政策に変更はないと語る。

▶ハイル農業開発会社、10月28日に公開された株式(額面100SR)の売却価格を140~200SRと発表。

▶ファハド国王、アブドゥラ皇太子へのメッセージのなかで、すべての文書、演説が、同国王の称号変更公式に従うよう命令。また、「国王陛下」以外であっても尊称は用いないよう命令。

2日 ▶GCC首脳会議、アブダビで開催。ファハド国王出席。

▶サウジ先端産業社(SAIC)、10月28日になっていた株式公開の期限を延期することを発表。

▶ムハマド東部州知事、ジュバイルで第4回湾岸人材管理会議を主宰。

3日 ▶スルタン国防相、ハマド参謀総長にアブドゥルアジズ国王勲章を授与。

▶アラブ湾岸商工会議所連盟、湾岸の企業家に対し、廃物利用のための合弁事業を提唱。

6日 ▶政府、ラフサンジャニ・イラン国会議長がイラン人留学生に対し、各国のサウジ、クウェート大使館を襲撃するよう呼びかけたことを非難。

▶シェイク農水相、農民から的小麦買付け(1kg当り2SR)は従来どおり続けると発言。

7日 ▶スルタン=スデシリ・ジョウフ州知事代行、同州農業開発会社(資本金1億5000万SR)設立の仮契約締結と発表。

8日 ▶ナゼル石油相代行、86年末までサウジは現行のOPEC原油生産割当てに従うと発言。

9日 ▶マジャリ国家警備隊東部州副司令官、兵器弾薬庫拡張工事起工式に参加。

▶アハマド内務次官、海軍研修所の卒業式で、国境警備隊の役割を強調。

10日 ▶ファハド国王、サウジは原油価格を1ドル18に引上げることめざすとともに、86年末までは現行のOPEC生産枠を守ると閣僚会議で発言。

▶ミクリン・ハイル州知事、農民への買上げ代金支払いを、国王に感謝。

13日 ▶港務局、85年9月15日~86年9月4日の船舶による輸出量を前年同期比35.9%と発表。

▶アラムコ理事会、サウジ人2名を同理事に任命。

14日 ▶アワディ内務次官、インフラ整備プロジェクトが終わった現在、政府は外国人労働者の退去を早めさせていると発言。

▶国民産業社(NIC)、サウジ碍子会社の21.8%の株式

を購入したと発表。

15日 ▶タキ・イラク石油相来訪。スルタン国防相と会見、ファハド国王宛のサダム=フセイン大統領親書を伝達。

▶アブドゥラ皇太子、訪欧のためリヤド発。

▶シェイク農水相、85~86穀物年度の小麦代金が農民に近いうちに支払われると発表。

▶情報最高委員会、リヤドで開催。ナイフ内相主宰。

▶ムハマド=イブンアブドゥルアジズ王子帰国。

16日 ▶スパドリニ・イタリア国防相来訪。スルタン国防相と会談。

▶ハメネイ・イラン大統領親書、同国特使を通じファハド国王に届けられる。

17日 ▶チャールズ、ダイアナ英国皇太子夫妻来訪。ファハド国王らと会見。

18日 ▶アジズ・イラク外相来訪。サウド外相と会見、サダム=フセイン大統領のメッセージ伝達。

▶民間防衛最高委員会、ナイフ内相の主宰でリヤドで開催。

▶SAMA、85年の市中銀行資産を前年比1.3%増1545億SRと発表。

20日 ▶バハレーン政府、小麦輸入元をオーストラリアからサウジに切り替えると発表。

21日 ▶ベトロミン、サウジ人スタッフ比率を71.7%(1万4010人のうち1万55人)と発表。

22日 ▶アブドゥラ皇太子、帰国。

▶ナイフ内相、バハレーン訪問。イサ首長と会談。

23日 ▶ファハド国王、アラファト PLO 議長と会談。

24日 ▶ファハド国王、サウジは石油価格の低迷にも拘らず、予算執行、開発計画実施に支障をきたさなかったと発言。

26日 ▶サウジ=バハレーン連絡橋開通式、マナマで行われる。ファハド国王、イサ・バハレーン首長出席。

▶アブドゥラ皇太子、リヤドで駐サウジ・イラン大使らと会見。

▶ナイフ内相、シリア訪問。アサド大統領、ハダム副大統領らと会談。

▶マムドーフ北部州知事、アブドゥルアジズ国王福祉協会理事会を主宰。

27日 ▶政府、イランが米国製武器を購入するにあたり、アドナン=カシヨギがサウジの代理としてイランに融資したとする報道を否定。

▶財政省、86年上半期の輸入を前年同期比21.0%減と発表。

28日 ▶労働次官、国内に余剰労働者はいないと発言。

29日 ▶アブドゥラ皇太子、東部州視察。

30日 ▶政府、米国とイランの武器売却交渉にサウジが重要な役割を果たしたとする AP 報道を否定。

12月

1日 ▶ファルシ・ジェッダ市長、健康上の理由により辞任。

2日 ▶ファハド国王、ダンマムの国家警備隊兵舎建設プロジェクトの着工式に出席。

3日 ▶ファハド国王、ウラマー、国軍将校、市民らと会見。

4日 ▶サルマン・リヤド知事、パリ訪問。

5日 ▶ムハマド東部州知事、アルコバールにレクリエーション設備を作るためにファハド国王が自分の土地を提供したと発表。

6日 ▶緊急閣僚会議、ダンマムで石油情勢を討議。

▶アブドゥラ皇太子、ダンマムを訪問。

7日 ▶サウジ製薬会社(SPIMACO)、89年までに国内需要の40%をまかなえるであろうと発表。

9日 ▶ムサイド=イブンアブドゥラハマン、心臓麻ひのため75歳で死亡。

▶ファハド国王、ダンマムの湾岸病院の拡張を命令。

10日 ▶国民工業社(NIC)、国民出荷会社の株式25%を購入したと発表。

▶サウジ=カイロ銀行、86年1～9月の利益が前年同期比で45.7%減少したと発表。

11日 ▶農水省、86年の小麦生産量を230万トと発表。

13日 ▶エルシャド・バングラデシュ大統領来訪。ファハド国王と会談。

14日 ▶ファハド国王、アサド・シリア大統領に親書送る。フワイテル教育相伝達。

15日 ▶閣僚会議、87会計年度の予算は29日に発表、31日から実施されると発表。

▶ファハド国王、収用人数1万人のモスクをアルコバール、ダンマム、ハサに建設することを命令。

▶ザミル工電相、工業部門労働者30万人のうち、5万人がサウジ人であると発表。

16日 ▶ファハド国王、アルコバールのファハド国王沿岸都市の落成式に出席。

▶政府、米国の対イラン武器供与との関わりを否定。

▶サダム=フセイン・イラク大統領、ファハド国王に親書送る。アジズ外相伝達。

▶アブドゥラ=イブンアブドゥラアジズ=イブンアブドゥラ=イブントッルキ=サウド王子、85歳で死亡。

▶王室令、タヘル・ペトロミン総裁を解任。

▶北部州のアブドゥラアジズ国王福祉協会理事会、女

子盲人学校教師の給与上げを決定。

17日 ▶ファハド国王、東部州のカティフ中央病院、アマル病院の落成式に出席。

▶ファハド国王、東部州に私費で200万の噴水をつくることを命令。

▶ファハド国王、アラファト PLO 議長からのメッセージ受けとる。

19日 ▶アラブ石油投資会社(APICORP)理事会、87年予算承認。

20日 ▶フセイン・ヨルダン国王来訪。ファハド国王と会談。

21日 ▶北部州農産物販売会社理事会、マムドゥーフ知事の主宰で開催。

▶スルタン国防相、アルコバール訪問。東部州要人と会談。

22日 ▶ファハド国王、ジュベイルのアブドゥラアジズ国王海軍基地指令センターの開所式に出席。

23日 ▶ファハド国王、ジュベイルのペトロミン・シェル合併製油所(日産能力25万バレル)の開所式に出席。

▶ムハマド東部州知事、上下水道設備はカティフにまで広げられたと発表。

24日 ▶ファハド国王、石油鉱物資源大学総合施設の開所式に出席。OPEC 諸国は石油価格が18%以上になるよう協力すべきであると発言。

▶王室令、ナゼル石油相代行を、石油相兼企画相代行に任命。

▶スルタン国防相、ダンマムでウラマー、市民と会談。

▶石油鉱物資源大学、名称をファハド国王大学に変更。

27日 ▶ファハド国王、ハサ訪問。

▶マムドゥーフ北部州知事、タブークの治安警察兵舎プロジェクトを視察。

28日 ▶サダム=フセイン・イラク大統領来訪。ファハド国王と会談。

▶ファハド国王、ハサの国家警備隊兵舎開所式に出席。同隊は、国家防衛の主軸を担っている、と述べる。

▶北部州教育局、マムドゥーフ知事賞を授与する学生を決定。

29日 ▶ファハド国王、87年度予算では補助金を削減しないと発言。

▶アルジャジラ銀行、86年1～9月の収益を前年同期比69.5%減の1230万SRと発表。

30日 ▶アブドゥラ皇太子、モロッコ訪問。

31日 ▶政府、87年度予算発表。歳出1700億SR、歳入1172億8000万SR。予算赤字527億2000万SRは準備金の取崩しでまかなう。

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 地域国際機関主要役職 | 4 国軍、国家警備隊等 |
| 2 サウジアラビア閣僚名簿 | 5 州知事 |
| 3 その他の主要役職 | 6 人事異動 |

1 地域国際機関主要役職

アラブ連盟 事務総長 Chadli Klibi(チュニジア)
 イスラム諸国機構 (OIC) 事務総長 Sayed Sharifuddin
 Pirezada(パキスタン)
 ムスリム世界連盟 (MWL) 事務総長 Dr. Abdullah
 Omar Naseef
 OPEC 事務総長 空席
 OAPEC 事務総長 Ali Ahmad Attiga(リビア)
 イスラム開発銀行 (IDB) 総裁 Ahmed Mohammad Ali
 GCC(湾岸アラブ諸国協力評議会)
 事務局長 Abdullah Yacoub Bishara(クウェート)
 政治担当副事務局長 Ibrahim Mahmoud al-Subhi
 経済担当副事務局長 Dr. Abdullah al Quwais
 軍事担当副事務局長 Ibrahim Noban
 GOIG(湾岸工業評議会機構)
 事務局長 Abdullah Hamad al Majed
 ROPME(海洋環境保護地域機構)
 事務局長 Abdul Rahman al Awadi
 (クウェート保健相)

2 サウジアラビア閣僚名簿

国王 } Fahd ibn Abdul Aziz al Saud
 首相 }
 皇太子 } Cr. Pr. Abdullah ibn Abdul Aziz al
 第1副首相 } Saud
 第2副首相・
 国防航空相 Pr. Sultan ibn Abdul Aziz al Saud
 外務相 Pr. Saud ibn Faisal ibn Abdul Aziz
 al Saud
 石油鉱物資源相 Hisham Maheddin Nazer(12月24日)
 情報相 Ali Hassan al Shaer
 内務相 Pr. Naif ibn Abdul Aziz al Saud
 財政国家経済相 Sh. Mohammad al Ali Abal Khali
 企画相代行 Hisham Moheddin Nazer
 工業電力相 Abdul Aziz al Zamil
 商業供給相 Sulaiman Abdul Aziz al Sulaim
 郵便電信電話相 Alawi Darwish Kayyal
 農業水利相 Abdul Rahman Abdul Aziz al Sheikh

労働社会問題相 Muhammad Ali al Fayez
 公共事業住宅相 Pr. Miteb ibn Abdul Aziz al Saud
 都市村落相 Ibrahim ibn Abdullah al Anqari
 運輸相 Hussein Ibrahim al Mansouri
 保健相 Faisal ibn Abdul Aziz al Hujailan
 教育相 Abdul Aziz Abdullah al Khuwaiter
 高等教育相 Hasan ibn Abdullah al Sheikh
 司法相 Ibrahim ibn Mohammad ibn Ibrahim
 al Sheikh
 巡礼宗教財務相 Abdul Wahhab Ahmad Abdul Wasi
 国務相 Sh. Mohammad Ibrahim Masoud
 国務相 Dr. Mohammad Abdul Latif al
 Melhim
 国務相 Abdullah Mohammad al Omran
 国務相 Omar Abdul Qader Faqih
 閣僚級待遇
 中央情報局長 Pr. Turki ibn Faisal ibn Abdul Aziz
 al Saud
 国防航空省顧問 Sh. Othman al Humaid

3 その他の主要役職

国防航空省副大臣 Pr. Abdul-Rahman ibn Abdul Aziz
 al Saud
 内務相副大臣 Pr. Ahmad ibn Abdul Aziz al Saud
 OPEC担当石油次官 Sh. Abdul Aziz al Abdullah al
 Turki
 政策担当外務次官 Sh. Abdul Rahman Mansouri
 行政担当外務次官 Sh. Abdul Aziz al Thaniyan
 経済担当外務次官 Sh. Abdullah Mohammad Alireza
 SAMA(サウジアラビア通貨基金)
 総裁 Hamid Saud al Sayari
 駐米大使 Pr. Bandar ibn Sultan ibn Abdul
 Aziz al Saud
 青年福祉局長 Pr. Faisal ibn Fahd ibn Abdul
 Aziz al Saud
 イスラム指導、司法、総合委員長(イスラム最高長老)
 Sheikh Abdul Aziz ibn Baz

㊦ 国軍, 国家警備隊等

〈国 軍〉

参謀総長 Muhammad Saleh al Hammad 大将
副参謀総長 Abdul Mohsin al Omran 大将
陸軍総司令官 Youssef Abdul Rahman al Rashid

中將

空軍総司令官 Abdullah al-Hamadan 少将
海軍総司令官 Muhammad Bakrati 准将

〈国家警備隊〉

総司令官 Abdullah 皇太子
副司令官 Pr. Badr ibn Abdul Aziz al Saud
副司令官補佐 Sh. Abdul Aziz Abdul Mohsen al
Tuweijiri

〈そ の 他〉

治安維持(警察)
総司令官 Abdullah ibn Abdul Rahman al
Sheikh

国境沿岸警備隊

総司令官 Mohammad ibn Hilal 少将

㊦ 州 知 事

マ ッ カ Pr. Majid ibn Abdul Aziz al Saud
リ ヤ ド Pr. Salman ibn Abdul Aziz al Saud
マ デ ィ ナ Pr. Abdul Majid ibn Abdul Aziz al
Saud
ハ イ ル Pr. Miqren ibn Abdul Aziz al Saud
東 部 Pr. Muhammad ibn Fahd ibn Abdul
Aziz al Saud
北 部 辺 境 Pr. Abdullah ibn Abdul Aziz ibn

Musaed al Saud

カ シ ム Pr. Abdul Illah ibn Abdul Aziz al
Saud
ク ラ イ ヤ ト Pr. Sultan ibn Abdul Aziz al Sudairi
ジ ャ ウ フ Pr. Abdul-Rahman ibn Ahmad al
Sudairi
北 部 Pr. Mamdouh ibn Abdul Aziz al Saud
ナ ジ ュ ラ ン Fahd ibn Khalid al Sudairi
ジ ザ ン Sh. Muhammad al Sudairi
バ ハ Ibrahim ibn Abdul Aziz ibn Ibrahim
ア シ ー ル Pr. Khalid ibn Faisal ibn Abdul Aziz
al Saud

㊦ 人 事 異 動

青年福祉局次長 Pr. Saud ibn Naif ibn Abdul Aziz al
Saud(1月21日)
マディナ州知事 Pr. Abdul Majid Abdul Aziz al Saud
(1月25日)
北 部 州 知 事 Pr. Mamdouh ibn Abdul Aziz al Saud
(1月28日)
国 務 大 臣 Faiz Ibrahim Badr 港湾局長
Turki ibn Khaled al Sudairi 行政委
員長
Omar Abdul Qader Fagi 会計監視局
長
Muhammad ibn Abdul Aziz ibn Zarah
監督調査局長
Sheikh Muhammad ibn Ibrahim ibn
Jubail 苦情局長(いずれも10月23日)
石油鉱物資源相 Hisham Moheddin Nazer(12月24日)。

主要統計 サウジアラビア 1986年

647

第1表 国内総生産 (部門別名目価格)

(単位: 100万 S R)

	1980/81	1981/82	1982/83	1983/84	1984/85*
国内総生産(政府サービスを除く)	517,994	530,243	411,797	367,622	334,496
1. 農 林 漁 業	5,572	6,740	8,725	9,371	10,561
2. 鉱 油・天然ガス	340,997	323,328	192,874	143,172	115,431
原産の他	1,696	1,969	1,785	1,740	1,688
3. 製 油 造 精	18,027	13,260	13,287	14,714	15,539
石産の他	7,721	9,124	10,685	12,007	11,817
4. 電 気・ガス・水道	339	-429	-850	9,468	2,025
5. 建 設	50,348	58,181	54,903	50,222	44,700
6. 卸売, 小売, レストラン, ホテル	21,986	28,064	28,088	28,448	27,944
7. 運 輸, 倉 庫, 通 信 業	17,123	19,871	21,489	24,180	23,492
8. 金 融, 保 険, 不 動 産 業	11,973	12,562	13,312	13,712	13,953
不 動 産 他	10,352	13,300	16,871	17,532	14,417
9. 社 会, 個 人 サ ー ビ ス	5,504	6,813	8,408	8,436	8,314
10. 金融サービスチャージ(控除)	-3,607	-3,968	-4,364	-4,406	-4,550
小 計	488,089	485,815	365,213	320,074	284,331
政 府 サ ー ビ ス	29,905	36,361	46,585	47,548	24,337
G D P 生 産 者 価 格	517,994	522,176	417,798	36,762	334,496
輸 入 税	2,595	2,542	2,650	3,624	4,724
G D P 購 入 者 価 格	520,589	524,718	415,230	371,246	339,220
実 質 G D P (1979/80 価格)	52,971	53,886	80,030	47,679	45,410

(注) * 暫定値。 (出所) SAMA, Annual Report, 1405(1985)年版。

第2表 国際収支 (暦年)

(単位: 100万 S R)

	1981 ¹⁾	1982 ¹⁾	1983 ¹⁾	1984 ²⁾
貿易収支(fob)	277,174	135,175	43,110	31,343
a) 石油輸出	375,320	249,978	154,305	127,518
b) その他の輸出入	2,954	3,728	3,565	4,450
うちバンカー	(2,413)	(2,695)	(2,619)	(2,505)
c) 輸 入	-101,100	-118,081	-114,760	-100,625
サービス・移転収支	132,532	-109,220	-98,616	-98,451
受 取 入 入	54,916	64,967	73,530	61,937
a) 投資収入	37,059	48,197	54,819	47,096
b) 石油部門	1,996	1,124	574	331
c) その他の他	15,861	15,646	18,137	14,510
支 払 い	-187,448	-174,187	-172,146	-160,388
a) 運賃・保険	-18,198	-21,254	-20,657	-18,112
b) 石油部門投資収入	-32,470	-21,291	-14,818	-12,682
c) その他の民間サービス	-38,747	-38,268	-32,788	-32,549
d) その他政府サービス	-84,168	-75,044	-85,797	-78,422
e) 民間移転	-13,865	-18,330	-18,086	-18,623
資本移動・準備金	-144,642	-25,955	+55,506	+67,108
石油部門・その他資本取引(純)	+21,811	+38,153	+17,409	+18,419
その他の他	-166,453	-64,108	+38,097	+48,689
為 替 レ ー ト				
期 加 重 平 末 均	3.4150	3.4350	3.4950	3.5750
	3.3826	3.4274	3.4549	3.5238

(注) 1) 修正値。 2) 暫定値。

(出所) 第1表に同じ。

第3表 貿易内訳 (暦年)

(単位: 100万 S R)

	1980	1981	1982	1983	1984	1985
全 輸 出	362,886	405,481	271,090	157,824	131,738	n. a.
全 輸 入	100,350	119,298	139,335	114,760	100,625	85,863
動 物・酪 農 品	4,121	4,874	4,980	4,975	4,696	3,911
植 物 製 品	5,345	7,144	8,276	6,588	8,859	5,036
加工食品, 飲料, 酢, タバコ	4,172	4,854	4,361	4,597	4,634	3,559
砂 糖	728	1,237	626	n. a.	n. a.	n. a.
小 麦 粉	703	286	162	n. a.	n. a.	n. a.
鉱 業 製 品	3,155	3,063	3,043	3,475	2,913	1,419
セ メ ン ト	2,138	1,806	1,920	n. a.	n. a.	n. a.
化 学 工 業 製 品	3,475	4,121	4,881	5,081	5,245	4,800
人造プラスチック, ゴム	2,597	2,911	3,397	3,501	3,468	2,916
木 材・木 材 製 品	2,597	2,650	2,711	2,799	2,095	1,142
う ち 木 材 の み	2,232	2,466	2,615	n. a.	n. a.	n. a.
パ ル プ・紙	1,107	1,353	1,536	1,600	1,605	1,204
織 維・織 維 製 品	6,751	7,294	8,251	9,056	8,823	7,524
ガ ラ ス・ガ ラ ス 製 品	3,421	3,515	3,487	4,160	3,669	2,637
真 珠・宝 石	2,397	3,478	3,827	4,205	3,605	3,293
卑 金 属・卑 金 属 製 品	14,611	17,443	20,719	19,101	14,183	10,276
機 械	24,534	30,323	35,536	36,120	28,409	17,841
運 輸 機 械	13,924	17,242	24,034	19,087	15,916	12,106
う ち 自 動 車 の み	9,535	9,670	13,842	n. a.	n. a.	n. a.
光 学・医 療・精 密 機 器	3,616	4,313	4,666	5,279	5,014	3,472
兵 器	61	29	8	13	23	17
雑 製 品	2,772	2,979	3,553	3,613	3,355	2,449
そ の 他	1,676	1,712	2,072	—	—	—

(出所) 第1表に同じ。

第4表 国家予算(会計年度イスラム暦7月～6月, ただし1987/88は12月31日～12月30日) (単位: 100万 S R)

	1984/85			1985/86			1987/88		
	金 額	構成比	対前年度比 (%)	金 額	構成比	対前年度比 (%)	金 額	構成比	対前年度比 (%)
人 材 育 成	30,460	11.7	9.6	23,951	12.0	-21.4	23,725	14.0	-0.9
人 運 輸・通 信	23,630	9.1	-5.3	16,500	8.3	-30.2	11,934	7.0	-27.7
経 済 資 源 開 発	17,560	6.8	32.9	14,434	7.2	-17.8	8,439	5.0	-41.5
保 健・社 会 サ ー ビ ス	18,080	7.0	33.0	14,830	7.4	-18.0	11,094	6.5	-25.2
イ ン フ ラ ス ト ラ ク チ ャ ー	9,830	3.8	2.6	6,670	3.3	-32.1	4,300	2.5	-35.5
地 方 行 政	17,460	6.7	-8.4	11,890	5.9	-31.9	8,100	4.8	-31.9
国 防・治 安	79,900	30.7	5.5	64,084	32.0	-19.8	60,752	35.7	-5.2
一 般 行 政・そ の 他	36,555	14.1	-22.3	29,998	15.0	-17.9	10,254	6.0	-65.8
特 別 融 資 制 度	16,000	6.2	-20.0	6,300	3.2	-60.6	3,590	2.1	-43.0
国 内 補 助 金	10,525	4.0	16.7	8,343	4.2	-20.7	6,800	4.0	-18.5
歳 出 計 (予算)	260,000	100.0	0	200,000	100.0	-23.1	170,000	100.0	-15.0
歳 出 計 (実績)	214,800								
歳 入 計 (予算)	214,100			200,000			117,280		
う ち 石 油 収 入	151,000			154,250					
歳 入 計 (実績)	169,600			130,000					
う ち 石 油 収 入	119,000			61,200					
財 政 収 支 (予算)	-45,900			0			-52,720		

(出所) SAMA, Statistical Summary, 1405 (1985)年版; Arab News; MEED.